

萩市立川上中学校で「森の学校」を実施

令和6年11月12日（火）と11月19日（火）の2日間にわたり、萩市立川上中学校1年生及び2年生の7人を対象に、地元林業研究グループ「川上スギの木会」が森の学校を行いました。

この活動は、次代の担い手である中学生を対象に、森林の働きや林業の必要性などについて、体験を通して理解を深めてもらうために行われました。

11月12日（火）は、阿武萩森林組合川上支所で、会員が森林の働きや川上の森林の特徴、林業の仕事について説明しました。

また、生徒たちは、川上で昔、実際に使われていた「木挽のこ」を持ってきて、その重さや大きさに驚き、昔の林業の仕事の大変さに思いを馳せていました。

11月19日（火）は、萩市川上の森林で枝打ちおよび間伐を実際に体験しました。まず、会員に枝打ちの手本を見せてもらい、会員から指導を受けながら木に登って枝打ちを行いました。最初は、梯子を登るの不安そうに足をかけていましたが、1本2本と作業するうちに梯子にも慣れ、次々と枝打ちをしていました。

次に、間伐も体験しました。会員から説明をうけ、立候補した3人で力を合わせて、1本切り倒しました。木が倒れたときは、歓声があがり、伐ったばかりの木の切口を観察したり、触ってみて、「湿っている」や「いい香りがする」との感想が聞かれました。

今回の森の学校を通じて、森林・林業に興味を持ってもらえることを期待しています。



森林の話（木挽のこ）



間伐体験